

継続的な課題として
考えられる内容

文章の構成

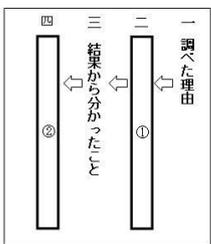
問題の趣旨

事柄のまとまりを意識して、文章の構成を考えることができる。

学習指導要領における領域・内容

[第3学年及び第4学年] B 書くこと イ
文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。

【正答】 ①イ ②ア



①

②

通過率 50.7%

【前田さんの文章の組み立て】

1 前田さんの文章の組み立てとして、() と () に入るべきものを、次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、その記号を□の中に入れてください。

【資料】

結果が分かったこと

資料にまとめてみて分かったこと(本文の二箇所)。

○ 順位が一位だった年は、そうでない年にくらべ、親数が少ない。

○ 順位が七位だった年は、そうでない年にくらべ、親数が少ない。

これらのことから、サンフレッチェ広島福島の順位によって親数の数は変わるといえると思います。親数の中には、順位によって試合回数に行こうとしようかを決めている人もあるのではないのでしょうか。

わたしは、たぐさんの人が試合回数に行こうとしようかを決めるのは、選手力が出て試合に勝つと思うので、順位を上げるためにみんなが試合回数に行こうとしようかを決めて、おうえんするとよいと思いました。

【資料】

調べた理由

わたしは、プロサッカーチームのサンフレッチェ広島福島の順位と親数の関係について調べました。サンフレッチェ広島福島の順位が決まる試合回数に行こうか、とたぐさんの親数がおうえんしてました。その様子を見て、「サンフレッチェ広島福島の順位のこと、親数が多いことは関係があるのだろうか」と思い、調べてみることにしました。

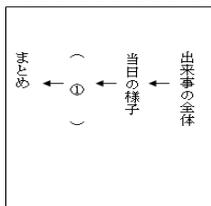
サンフレッチェ広島福島の順位と親数について調べたことを資料にまとめました。

【取材メモ】

四 次の文章は、前田さんが「サンフレッチェ広島福島の順位と親数の関係」について調べたことを報告するためにまとめた文章です。あとの問いに答えましょう。

【平成二十六年 度 題材 報告文】

【正答】 ①ウ



①

②

通過率 88.3%

【記事の組み立て】

1 マラソン大会の記事の組み立てとして、() () に入るものはどれですか。次のア～エの中から、最も適切なものを一つ選び、その記号を□の中に入れてください。

【マラソン大会の記事】

力のかぎり 走った 5年生!

十月十日(金)午前十時から運動場でマラソン大会が行われました。五年生五十二人は、千メートルを走りました。

この日は、

まだ、家の人がたぐさんおうえんに来てくれました。

写真

一まげん命走った5年生の様子

結果は、男子一位が森山さん、女子一位が川本さんでした。男子一位になった森山さんは、練習の時より十秒遅くゴールできました。また、女子一位になった川本さんは、「たぐさんの人がおうえんしてくれたので、最後まで走る事ができました」とうれしそうに話していました。

今年のマラソン大会は、「一人一人が最後まで全力で走り、大成功でした。」

【取材メモ】

○日時 十月十日(金)午前十時

○場所 運動場

○参加者 一年生から六年生の全員

○観戦者 五年生、五十三人

○きり 五年生は千メートル

○当日の様子

・みんないつも以上に、生け足で走っていた。ほとんどの人がこれまで一番よい記録を出していた。

・家の人もおうえんしていた。

○結果

・男子一位 森山さん 二位 西本さん

・女子一位 川本さん 二位 田中さん

○インタビュー

・一位になれたのでうれしい。

・(西本さん)

・たぐさんの人がおうえんしてくれたので、最後まで走ることができた。

(川本さん)

・練習の時より十秒遅くゴールできたのでうれしい。(森山さん)

【取材メモ】

四 新聞版の山本さんたちは、学校新聞を作って、学校の友達に読んでもらおうとしました。山本さんは、「マラソン大会」の記事の担当になりました。次は、山本さんの「取材メモ」と「マラソン大会の記事」です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【平成二十七年 度 題材 新聞の記事】

内容の系統

第1・2学年 書くこと イ
自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

第3・4学年 書くこと イ
文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。

第5・6学年 書くこと イ
自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

通過率の推移

年度	H26	H27	H28
通過率(%)	50.7	88.3	75.4
出題した文章の種類	報告文	新聞の記事	物語

「文章の構成」に関しては、これまで様々な種類の文章を題材にして文章の構成を捉える問題を出題してきました。平成26年度は、

報告文を題材としたところ、通過率 50.7%と課題が見られる結果となりました。平成27年度は、新聞の記事を題材としたところ、通過率 88.3%とかなり定着しているという結果となり、平成28年度は、物語を題材としたところ、通過率 75.4%とおおむね定着しているという結果となりました。

これらの結果から、様々な文章の種類の中でも、とりわけ報告文の構成に関して、理解が不十分であると言えます。要因として、新聞の記事や物語に比べ、報告文に触れる機会や実際に書く機会が少ないことが考えられます。

平成 29 年度は、報告文の構成に関する授業改善の状況を把握するため、平成 26 年度と同様の問題を出題しました。



平成 29 年度の問題

【平成二十九年度 題材 報告文】

四 次の文章は、保健委員の山下さんが、けがをした場所とけがの種類について調べたことを、全校のみんなに報告するためにまとめた文章です。あとの問題に答えましょう。

校内でのけがを少なくするために

一 ①

わたしは、保健委員会に入っています。

当番の仕事をしていると、たくさんの人がけがをしては保健室に来ることが分かったので、わたしは、けがをする人を少なくするために、校内のどこで、どんなけがをする人が多いのかを調べてみることにしました。

二 調べた方法

最近の運動で、保健室に来た人に、校内のどこで、どんなけがをしたのかアンケートをして調べました。

三 調べた結果

a けがをした場所とけがの種類について調べたことを表すものとめ。

【表】場所と種類別のけが調べ(人)

場所\種類	すりきり	割き	転び	指が	合計
運動場	6	1	0	3	10
体育館	3	0	1	3	7
廊下	0	0	3	2	5
ろうか	0	0	2	2	4
教室	0	1	0	0	1
合計	9	2	6	10	27

四 結果から分かったこと

表にまとめてみて分かったことは次の二点です。

○ 運動場や体育館など、体を動かす場所では、すりきりや打撲が多いことが分かりました。

○ ろうかや廊下など、い動するときに使う場所では、ねんざや打撲が多いことが分かりました。

五 これらのことから、遊び時間や体育の時間では、遊びや運動にむかひになつて、転んだりぶつかったりする人が多いのではないかと考えます。また、廊下やろうかでは、い動するときに前を見ていなかったり、あわてたりしているのではないかと考えます。みんなんで、体を動かすときに気をつけることや、安全な動きの仕方考え、ルールを決めるなど、けがをせよような取り組みを進めていくことが大切ではないでしょうか。

一 山下さんの文章の組み立てとして、①と②に入るをわらひものを、次のア～エの中からそれぞれ一つつ選び、その記号を□の中に書きましょう。

【正答】①エ ②イ

ア 結果の予想
イ 自分が考えたこと
ウ 次に調べたいこと
エ 調べた目的

通過率 54.5%

解答類型を基に児童の誤答を分析しましょう。個々の児童のつまずきを把握し、その個に応じた具体的な手立てを講じていきましょう。



誤答と分析(平成 26 年度と平成 29 年度)

誤答と無解答			H26 (%)	誤答と無解答			H29 (%)	自校
×	①にイと解答していないが、②にアと解答しているもの		9.6	×	①にエと解答していないが、②にイと解答しているもの		7.1	
×	①にイと解答しているが、②にアと解答していないもの		7.3	×	①にエと解答しているが、②にイと解答していないもの		13.1	
×	上記以外の解答		32.0	×	上記以外の解答		24.1	
—	無解答		0.5	—	無解答		1.2	

【分析】

平成 26 年度と平成 29 年度を比較してみると、どちらも「上記以外の解答」の児童の割合が高く、アからエの選択肢にある、文章の構成を表す言葉についての理解が不十分であると考えられます。また、報告文に書かれている内容と、文章の構成を表す言葉に対応させながら読むことにも課題があると考えられます。

継続的な課題

○ 報告文の構成についての理解が不十分である。また、本文に書かれている内容と選択肢にある文章の構成を表す言葉に対応させながら読むことにも課題がある。

【今後の指導に向けて】

まず、報告文を書かせる前に、報告文とは、活動したことや調査したり研究したりした結果を報告する文章のことであり、それらを特定の相手に知らせることを目的とした文章であるということを、しっかりと押さえておきましょう。

その際、報告文の構成の特徴を理解させるために、報告文の様々な例を提示し、比較させる中で、報告文の構成の特徴に気付かせていくことが大切です。児童の気付きをまとめながら、報告文は、例えば、「調べた目的」、「調べた方法」、「調査の結果」、「考えたこと」等で構成されていることを理解させましょう。その際、指導者自身が報告文のモデルを自分で書いてみたり、そのモデルを児童に示してみたりすることも有効です。

その他にも、報告文を書く活動では、次のことを大切に指導しましょう。

目的や相手の明確化	何のために、誰に、伝えるのか等、報告する目的や相手を明確にさせる。
資料の活用	報告する目的に応じて、どのような調べ方があるのか、どのような表し方があるのか考えさせ、文章だけでなく図表やグラフなどの資料を、意図的、計画的に活用させ、数値や事例などを引用できるようにさせる。
記述・推敲	「調べた目的」、「調べた方法」、「調べた結果」、「結果から分かったこと」、「考えたこと」をカードに書かせ、構成表などに整理させる。書かれている内容と小見出しが対応しているかを確認させる。

なお、報告文は、国語科だけでなく、社会科や理科、総合的な学習の時間等、様々な場面で書く機会があります。国語科で学習したことと関連付けて指導し、より一層の定着を図りましょう。

授業改善のポイント

- 報告文とはどのような文章であることをしっかりと押さえましょう。
- 様々な報告文に触れさせることを通じて、報告文の構成を理解させましょう。
- 他教科等で調査や研究したことを報告文に書く際に、国語科で学習した内容を想起させましょう。